

令5 養 護 (5枚のうち1)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

I 児童生徒が持つ性に関する疑問や悩みに対しては、学校保健関係者が個々の発達や関心レベルに合わせて指導するなど適切な対応が望まれる。あとの問いに答えなさい。

1 保健指導の法的根拠である学校保健安全法第9条及び第10条について、あとの(①)～(⑤)にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ番号には同じ語句が入る。

学校保健安全法第9条
 養護教諭その他の(①)は、相互に連携して、(②)又は児童生徒等の健康状態の日常的な(③)により、児童生徒等の心身の状況を把握し、健康上の問題があると認めるときは、遅滞なく、当該児童生徒等に対して必要な指導を行うとともに、必要に応じ、その(④)に対して必要な助言を行うものとする。

学校保健安全法第10条
 学校においては、救急処置、(②)又は保健指導を行うに当たっては、必要に応じ、当該学校の所在する地域の(⑤)その他の関係機関との連携を図るよう努めるものとする。

2 次の文は、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」(文部科学省)の一文である。あとの(①)～(③)にあてはまる語句を書きなさい。

思春期には、下垂体から分泌される(①)ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では(②)、女子では月経が見られ、(③)が可能となることを理解できるようにする。

3 次の文は、「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」(公益財団法人日本学校保健会)の第2章「健康診断時に注意すべき疾病及び異常」に記載された産婦人科関連の内容のうち、初経の時期について説明している。あとの(①)～(⑤)にあてはまる語句を、下のア～セからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。ただし、同じ番号には同じ語句が入る。

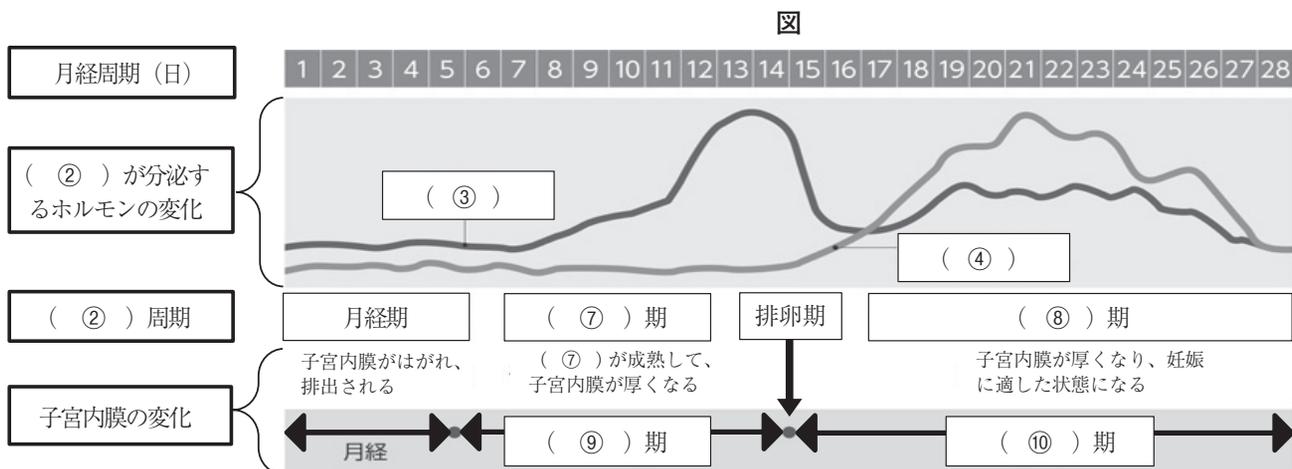
初経は10～14歳の間に発来するのが正常である。10歳未満で月経が開始されるのを(①)月経、15歳以降に発来するのを(②)月経という。15歳になっても月経が一度もないと原発(③)の可能性を考慮して専門医への受診を勧める。思春期(①)症では、骨端線の早期閉鎖による(④)の予防に留意する。18歳になっても初経が発来しない原発(③)では、染色体異常や(⑤)奇形等が原因であることが多く、(⑤)奇形は治療によって腹痛等の症状も含めて(③)が改善するため、早期の対応が重要となる。

ア 貧血	イ 低身長	ウ 低体重	エ 骨折	オ 赤血球	カ 骨盤	キ 子宮
ク 過多月経	ケ 過少月経	コ 無月経	サ 早熟	シ 早発	ス 晩熟	セ 遅発

4 次の文は基礎体温の説明文であり、下の図は月経開始日を1日目として月経周期が28日である場合の女子の体内変化を示している。

(1) 次の文と下の図の(①)～(⑩)について、あてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ番号には同じ語句が入る。

女子が毎朝起床時に、口腔の(①)で計測した体温で、連日測定した体温を記録することにより、その曲線から(②)機能を判定することができる。(②)から分泌される(③)は、体温上昇の作用はないが、排卵後に分泌される(④)は体温の中核に働いて上昇させる。よって、排卵のある女子の月経周期における体温は、月経後排卵までの(⑤)期(相)と、排卵後次の月経開始までの(⑥)期(相)の二相性の変化を示す。排卵がない場合の体温は一相性である。



(2) 次の文は、月経痛及び月経随伴症状について説明している。あとの(①)～(④)にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ番号には同じ語句が入る。

月経困難症は月経に伴って起こる病的症状で、子宮内膜症や子宮筋腫等が原因となる(①)性月経困難症と、特定の疾患がない(②)性月経困難症に分けられ、思春期では、(②)性月経困難症が多いが、将来的に(①)性月経困難症に移行するリスクを有する。

疼痛に対しては、腰を温めたり有酸素運動をしたりするなどの対処のほか、痛みのピークに達する前に非ステロイド系消炎鎮痛剤の服用を勧め、月経痛を我慢させないように指導する。鎮痛が不十分であれば産婦人科にて処方される低用量(③)(いわゆるピル)等によるホルモン療法も効果的である。

また、月経開始の3～10日前からイライラや憂うつ、下腹痛や頭痛、むくみ、食欲の亢進や傾眠等の多彩な精神的・身体的症状が出現し、月経開始とともに減退する場合は(④)の可能性を考慮して専門医への受診を勧める。

令5 養 護 (5枚のうち2)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

II 脳について、あとの問いに答えなさい。

1 次の文は、脳の構造について説明している。あとの(①)～(⑥)にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ番号には同じ語句が入る。

脳は、大脳、小脳、(①)からなる。大脳は、左右の大脳半球から構成され、ヒトの脳の大半を占めており、前頭葉、(②)、(③)、後頭葉の4領域に区別される。小脳は、(①)の後ろ側にあり、大半を大脳半球に覆われ、内耳の(④)感覚や、(⑤)機能に関与している。(①)は、間脳、中脳、橋、(⑥)に分かれており、生命維持に深く関与している。

2 次の(1)、(2)の(①)～(③)にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ番号には同じ語句が入る。

- (1) 交通事故やスポーツ外傷等の後に、(①)が漏れ出し減少することによって、起立性頭痛、頸部痛、めまい、倦怠、記憶障害などの様々な症状を呈する疾患を(①)減少症という。
- (2) 頭部に直接あるいは間接的な衝撃が加わることにより脳がゆすぶられ、一時的な意識消失や記憶障害、頭痛、吐き気などを起こす頭部外傷を(②)という。また、(②)の後、数日から数週間後に2回目の頭部外傷を負い、致死的な脳腫脹をきたすものを(③)症候群という。

III 「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」(公益財団法人日本学校保健会)に示されている健康診断の方法及び技術的基準について、文中の下線部①～⑦の記述が正しいものは○を、誤っているものは正しい語句や数字を書きなさい。

- (1) 視力検査では、はじめに0.3の指標から開始するのを原則とする。上下左右のうち①3方向を任意に見させ、指標の提示時間は3～5秒間とする。
- (2) 身長測定では、尺柱には、両かかと、臀部、②頭の一部分が触れた状態とする。
- (3) 聴力検査では、まず1,000Hz③25dBの音を聞かせ、聞こえるかどうか応答させる。
- (4) 女子の尿検査では、採尿日が生理日及びその前後1～④2日であれば、別の日に採尿させて検査する。
- (5) 歯科検診では、大きく開口させ、歯及び口腔を観察する。検査は、⑤視診を中心に行い必要に応じて探針を用いる。
- (6) 栄養状態では、皮膚の色や光沢、⑥湿疹の有無、皮下脂肪の状態、筋肉や骨格の発達の程度等について、視診あるいは触診により検査する。
- (7) 心臓検診では、1次検診にて⑦心室頻拍やQT延長症候群など突然死につながる疾患が見つかった場合は、至急精密検査となる。

IV 次の文は、「学校における薬品管理マニュアル」(公益財団法人日本学校保健会)に示されている医師法第17条、歯科医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条に基づく教職員の医療用医薬品の使用に関する記述である。あとの(①)～(④)にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ番号には同じ語句が入る。

教職員が児童生徒に医療用医薬品を使用する行為は、医行為に当たるので行うことはできません。

しかし、児童生徒が、以下の3つの条件を満たしており、事前に保護者の具体的な依頼に基づき、医師の処方を受け、あらかじめ薬袋等により授与された医薬品について、医師又は歯科医師の処方及び薬剤師の服薬指導の上であれば医薬品の使用〔(1)皮膚への軟膏の塗布、(2)湿布薬の貼付、(3)点眼薬の点眼、(4)一包化された内服薬の内服、(5)肛門からの坐薬の挿入、(6)鼻腔粘膜への薬剤噴霧〕の(①)が可能で。

【3つの条件】

- 1 患者の(②)が安定していること
- 2 医師又は(③)による連続的な(②)の経過観察が必要ではないこと
- 3 医薬品の使用に関して(④)が必要ではない場合

V 「学校における麻しん対策ガイドライン(第二版)」(国立感染症研究所感染症疫学センター)に示されている麻しん発生時の対応について記述内容が誤っているものを、次のア～キからすべて選んで、その符号を書きなさい。

- ア 麻しんまたは麻しん発症が疑われる児童生徒・職員等が複数名確認された時点ですぐに対応を開始する。
- イ 学校及び学校の設置者は、所管の保健所あるいは保健センターの実施する「積極的疫学的調査」に積極的に協力する。
- ウ 欠席者を把握し、その欠席理由として麻しんと診断されている者の有無を確認する。
- エ 麻しん患者と接触した者が、麻しんの罹患歴や予防接種歴がない場合、患者との接触後72時間以内であれば、麻しん含有ワクチン(MRワクチンが望ましい)の緊急接種を行うことで麻しん発症を予防できる可能性がある。
- オ 校長は、麻しんを発症した者に対して学校保健安全法に基づく出席停止(解熱後2日を経過するまで)の措置をとる。
- カ 校長は、麻しん患者以外で発熱等の症状があり、麻しんが疑われる者についても、必要に応じて学校医や保健所等と相談し、学校保健安全法による出席停止とすることができる。
- キ 「最後の麻しん患者と児童生徒及び職員との最終接触日から、2週間新たな麻しん患者の発生が見られないこと」の要件が満たされたときに、学校の設置者と校長は学校医・保健所等と協議の上、終息宣言の時期を決定する。

令5 養 護 (5枚のうち3)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

VI 次の細菌①～⑥が大量に増殖した場合に細菌性食中毒の原因となる主な食品を、あとのア～カからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。

細菌	①ブドウ球菌 ②サルモネラ属菌 ③ウエルシュ菌 ④ボツリヌス菌 ⑤腸炎ビブリオ ⑥カンピロバクター
原因となる 主な食品	ア 食肉（特にレバーの刺身や牛肉の刺身などの生肉）、卵およびその加工品（ハム、ソーセージなど） イ 魚介類の刺身や寿司 ウ 食肉（特に鶏肉）、生野菜（サラダなど）、動物の糞便で汚染された食品や飲料水 エ 大量に加熱調理された食品（カレー、シチューなど） オ 手指のキズに接触した食品（おにぎり、サンドイッチなど） カ 缶詰、瓶詰、真空パック、ハム・ソーセージ、ハチミツなど

VII 日常における環境衛生に係る学校環境衛生基準のうち、水泳プールの管理について、あとの(①)～(⑧)にあてはまる語句や数字を書きなさい。ただし、同じ番号には同じ語句が入る。

水泳 プールの 管理	プール水等	(1) 水中に(①)や異常なものがないこと。 (2) 遊離残留塩素は、プールの使用前及び使用中(②)時間ごとに1回以上測定し、その濃度は、どの部分でも(③) mg/L以上保持されていること。また、遊離残留塩素は(④) mg/L以下が望ましい。 (3) (⑤)は、プールの使用前に1回測定し、(⑤)が基準値程度に保たれていることを確認すること。 (4) 透明度に常に留意し、プール水は、水中で(⑥) m離れた位置からプールの(⑦)が明確に見える程度に保たれていること。
	附属施設・設備等	プールの附属施設・設備、浄化設備及び消毒設備等は、清潔であり、破損や(⑧)がないこと。

VIII 次の文1～13の(①)～(⑮)にあてはまる語句や数字を書きなさい。ただし、同じ番号には同じ語句が入る。

- 学校保健計画には、学校保健安全法第5条で規定された児童生徒及び職員の健康診断、(①)、児童生徒等に対する指導に関する事項を必ず盛り込むこととされている。
- 保健室経営計画とは、当該学校の(②)及び学校保健目標などを受け、その具現化を図るために、保健室の経営において達成されるべき目標を立て、計画的・組織的に運営するために作成される計画である。
- 学校教育法施行規則第45条第4項において、「校長の監督を受け、小学校における保健に関する事項の管理に当たる」(中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用する。)とされているのは(③)である。
- 文部科学省が示した「学校におけるがん教育の在り方について(報告)」(平成27年3月)及び「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」(平成28年4月)には、「がん教育は、健康教育の一環として、がんについて正しい理解と、がん患者や(④)などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。」と定義されている。
- 歯が脱臼した場合、(⑤)部を持ち、乾燥させないように市販の保存液に入れ、速やかに歯科医療機関を受診する。
- アレルギー反応により、じんましんなどの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、ゼーゼーという呼吸音や呼吸困難などの呼吸器症状が、複数同時にかつ急激に出現した状態を(⑥)といい、その中でも血圧低下や意識低下、脱力を来すような場合を(⑥)ショックという。
- 耳下腺の腫脹が主症状で、顎下腺や舌下腺なども腫れ、思春期以降のり患では精巣炎、睪丸炎、卵巣炎を生じて不妊症をきたすことがある流行性耳下腺炎の病原体は(⑦)ウイルス(流行性耳下腺炎ウイルス)である。
- AとBの2つのタイプがあり、遺伝性の血液凝固障害がある疾患で、伴性遺伝により男子に発症が多く、深部出血や関節出血が最も特徴的な疾患を(⑧)という。
- 平成28年度予防接種法施行令及び予防接種法施行規則の改正により、平成28年10月1日以降、定期予防接種に追加されたため、2021年以降の就学時健康診断においては、(⑨)肝炎の予防接種歴についても確認を行う必要がある。
- 厚生労働省の定義では、レトロウイルスの一種であるヒト免疫不全ウイルスの感染によって免疫不全が生じ、日和見感染症や悪性腫瘍等を合併した状態を(⑩)という。
- 長期間喫煙を続けた場合になりやすいとされている喫煙関連三大疾患は「がん」、「虚血性心疾患」、「(⑪)肺疾患(COPD)」である。
- 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説(保健体育編・体育編)(文部科学省)において、「アルコール、薬物などの物質への依存症に加えて、(⑫)等への過剰な参加は習慣化すると嗜癖行動になる危険性があり、日常生活にも悪影響を及ぼすことに触れるようにする。」と記載され、精神疾患の一つとして(⑫)等依存症を含めた依存症について取り上げるようになった。
- 「熱中症環境保健マニュアル2022」(環境省)に記載された「熱中症予防運動指針」(公益財団法人日本スポーツ協会)では、「暑さ指数(WBGT)による基準域(⑬)以上(⑭)未満を「警戒」とし、「熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では(⑮)分おきくらいに休憩をとる。」とされている。

令5 養護 解答用紙 (5枚のうち4)

総計		

養護

I	1	①		②		③		
		④		⑤				
	2	①		②		③		
		④		⑤				
	3	①		②		③		
		④		⑤				
	4	(1)	①		②		③	
			④		⑤		⑥	
			⑦		⑧		⑨	
		⑩						
(2)		①		②		③		
	④							

I		

II	1	①		②		③	
		④		⑤		⑥	
	2	①		②		③	

II		

III	①		②		③	
	④		⑤		⑥	
	⑦					

III		

令5 養護 解答用紙 (5枚のうち5)

IV	①		②		③	
	④					

V	
---	--

IV V		

VI	①		②		③	
	④		⑤		⑥	

VII	①		②		③	
	④		⑤		⑥	
	⑦		⑧			

VI VII		

VIII	①		②		③	
	④		⑤		⑥	
	⑦		⑧		⑨	
	⑩		⑪		⑫	
	⑬		⑭		⑮	

VIII		

総計		
200		

令5 養護 模範解答

I	1	①	職員	②	健康相談	③	観察	
		④	保護者	⑤	医療機関			
	2	①	性腺刺激	②	射精	③	妊娠	
		①	シ	②	セ	③	コ	
	3	④	イ	⑤	キ			
		4	(1)	①	舌下	②	卵巣	③
	④			プロゲステロン	⑤	低温	⑥	高温
	⑦			卵胞	⑧	黄体	⑨	増殖
	⑩		分泌					
	(2)	①	器質	②	機能	③	経口避妊薬	
④		月経前症候群						

I		
71		

II	1	①	脳幹	②	側頭葉	③	頭頂葉
		④	平衡	⑤	運動	⑥	延髄
	2	①	脳脊髄液	②	脳震盪	③	セカンドインパクト

II		
27		

III	①	4	②	背	③	30
	④	○	⑤	○	⑥	貧血
	⑦	○				

III		
14		

令 5 養護 模範解答

IV	①	介助	②	容態	③	看護職員
	④	専門的配慮				

IVV		
1 5		

V	ア オ キ
---	-------

VI	①	オ	②	ア	③	エ
	④	カ	⑤	イ	⑥	ウ

VII	①	危険物	②	1	③	0. 4
	④	1. 0	⑤	p H値	⑥	3
	⑦	壁面	⑧	故障		

VIVII		
2 8		

VIII	①	環境衛生検査	②	教育目標	③	保健主事
	④	家族	⑤	歯冠	⑥	アナフィラキシー
	⑦	ムンプス	⑧	血友病	⑨	B型
	⑩	A I D S	⑪	慢性閉塞性	⑫	ギャンブル
	⑬	2 5	⑭	2 8	⑮	3 0

VIII		
4 5		